

**【NEWS RELEASE】**

2021年10月29日

各 位

株式会社三井住友銀行

薬糧開発株式会社の「SDGs推進私募債」買受けについて

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：高島 誠）は、薬糧開発株式会社（代表取締役：河野 孝明）の発行する「SDGs推進私募債」を買受けいたしました。

「SDGs推進私募債」は、私募債買受け時に、株式会社三井住友銀行と株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）が、企業のSDGs（※）に関する現状の取組状況を確認した上で、本業を通じたSDGs貢献への道すじ（ロジック）を分析し、SDGsの取組推進に向けたアドバイス等をご提供する商品です。

今回対象となりました、薬糧開発株式会社については、以下に記す事業を通じて、SDGsの目標達成に向けた貢献が期待できると判断されました。

## ① 有機農業による食材提供を通じた持続可能な食糧生産と健康維持への貢献

目標 2 飢餓をゼロに	2.4 2030年までに、生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し、気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水およびその他の災害に対する適応能力を向上させ、漸進的に土地と土壌の質を改善させるような、持続可能な食料生産システムを確保し、強靱（レジリエント）な農業を实践する。
	2.3 2030年までに、土地、その他の生産資源や、投入財、知識、金融サービス、市場および高付加価値化や非農業雇用の機会への確実かつ平等なアクセスの確保等を通じて、女性、先住民、家族農家、牧畜民および漁業者をはじめとする小規模食料生産者の農業生産性および所得を倍増させる。
目標 3 すべての人に健康と福祉を	3.9 2030年までに、有害化学物質ならびに大気、水質および土壌の汚染による死亡および疾病の件数を大幅に減少させる。

② 生産から販売までの一貫体制によるフードロス削減および店舗におけるSDGs推進によるサステナビリティへの意識啓発

<p>目標 12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>12.3 2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体のひとりあたりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる。</p>
	<p>12.8 2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発および自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。</p>

三井住友銀行では、「SDGs推進私募債」により、本業を通じ、SDGsが達成される社会の実現に貢献をしております。





<ご参考>

※ SDGsとは

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことです。

以 上

このニュースリリースは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。